

愛媛県 教員採用試験 2003年7月実施 の 合格体験談 です。

こんにちは。教員採用試験を受験予定のみなさんへ、受験してみないと分からないことも多くありましたので、ぜひ情報を提供させていただきたいと思いこれを書きました。書いていると勢いがついてめちゃ長くなりましたが読んで参考にしてくださいね

2002年に続いての2度目の受験でした。現役のときに受験していないことと県外出身であることのため、情報不足なまま一度目は受け、見事落ちました。

去年の受験後、講師の話をいただいて、中学校で講師を続けています。昨年度の学校は9月からの勤務で7ヶ月間、その後4月に今の中学校に変わりました。

3月の離任式では「せんせー、俺の担任になってくれる、つつたよな。来年もおる、って言うたやんかー、なんで転勤なんー！！ 聞いてないでー！俺・・・」と言って責めてきた生徒の姿に、「次ので絶対通ってやる」と一念発起して東京アカデミーに通い始めました。

試験前の勉強の日々

アカデミーの講義は平日の夜間でしたが、毎日5時半ごろこそと帰るのに罪悪感を覚えてしまい、「実は毎日塾行って勉強してるんですー、すいません、毎日早く帰って。9月からは取り返す勢いで働くので今は許してください!!」と潔く言うと、それからは「早く帰りなさい、今日も行くんでしょ、頑張ってね。あなたが先生にならないで誰がなるのよー」と励まされ、一日2時間、平日はほぼ毎日勉強しました。

平日は燃え尽きていたので、土日はできるだけ出かけて友達と遊んだり、本屋さんで試験と関係ない本を選んで読みふけていました。(でも直前は毎週末面接討論の練習でしたが)勉強アイテムとしては、東京アカデミーの教採用に出ている問題集参考書類全般。他は何も使いませんでした。講義で受けたところの問題をやって、間違えたところからノートに書き、覚えていくという方式でやっていきました。

教職教養は、教師になってから絶対必要な基礎知識だ、と自分に暗示をかけて(それはほんとのことですが)やりました。もともと倫理や心理には非常に興味があったので、それほど苦痛ではありませんでしたね。

一般教養は、これといって対策を練らず、アカデミーの講義でやるだけでした。新聞は毎日読みました。で、教育関連の記事は切り取っておいて、ノートにまとめ、アカデミーで友人たちと話しました。あーでもない、こーでもない、と意見を言い合うだけでしたが、論文面接対策にもなりました。

専門は中学校英語です。4回生の時、留学をするつもりで必死で英語はやっていたので、今回はほとんど時間を割きませんでした。イギリス文学などを原文で時間をかけて読む、なんとも高尚なことをしていたので(大学の授業の影響)、長文も作文もなんとかなるさー、という感じです。卒論も英語で50ページ書いたし。

論文も一度書いたくらいです。模試でどうしても必要だったので。前の学校の同僚の先生が、そのときの教頭と新採の先生の論文をくれたので、それに目を通して写したりしていました。

討論面接対策は、友だちと集まって練習しました。一人がテーマを考えてきて、その後練習、個人面接まで行い、お互い悪かったところを指摘しあいます。目線、表情、口調、言葉遣いなど。これもアカデミーの面接対策講座に行っていたのでそのテキストを使いました。教官が辛口だったので、影響されてたまには叱咤しあいながら、褒めあいながらやりました。

クレペリンはノータッチ。今の学校の同い年新採数学教師に「クレペリンは手を動かさずに紙をずらしながらやれ」と言われましたが、実際手が動きました。自分のやり方が良いみたいですが。当日クレペリンの最中にたびたび彼のことを思い出しては紙を動かして腕を固定していましたが、二の腕がピクピクしました。。。。

試験一日目

愛媛県は一次二次の区別なく、一日目に全員が筆記試験を受けます。

適正試験

うわさの計算ばかりするクレペリンです。ただただ集中、邪念を取り払って必死で計算するのみです。

論文

「近年言われている教育問題から 1 つ選び、背景とそれに対する教育的取り組みについて論じなさい」

でした。

裏を向けて配布しているにもかかわらず、なんと透けて見えました(笑)。なので、始まる前にすでに構想が固まりました(ラッキー)。

自分は「開かれた学校づくり」について、

1 段落目 地域とのつながりが薄くなっていると言われていたこと

昔は学校は地域の中心的存在だったこと

地域で子どもを育てる体制作りの必要性(3つのポイントをあげました)

2 段落目 3 段落目 4 段落目でそれぞれ前に提示したポイントを論じました(何を書いたか自分で忘れまして・・・)

5 段落目 一段落目で書いたことを繰り返し、だから学校と地域と家庭が三位一体となって教育に取り組まなければならない。

という流れで書きました。

なんと、50分で1600字、という極めて無理な条件の論作文です。が、テーマは毎年「聞いたことある」ものです。日ごろから考えをしっかりと持っていれば大丈夫です。時間の都合上、下書きやアウトラインをまとめる時間はありません。ぶっつけ本番

です。私は書く練習を全くしてなかったのですが、1400字くらいまで何とか埋めました。1600字までは到達しませんでした。論旨が纏まっていたので満足です。

教職一般教養

試験はすべて記述式です。教職教養は心理、法規、など幅広く出ますがベーシックなものばかりです。ペスタロッチなど。あと、少年法が大問で出ました。同和問題は必ず出ます。今回は昭和40年辺りのことが出ました(なぜそんな昔のことを...)。一般教養には愛媛県の魚は何、とか、愛媛が生産量日本一の農産物は何、とか、愛媛の問題が多く出てました。4択問題。あと、正岡子規が昨年野球殿堂入りをしたとかでそれも出ました。メディアオンライン、なども。

数学や理科の問題は中3から高校レベルです。

専門筆記

記述式です。英語の問題には、学習指導要領の目標の穴埋めが毎年出てきます。

長文、作文もありますが問題を忘れました。

センター試験レベルです。なので少しは準備しておいた方がよかったかもしれませんね。

今年はふるしきを英語で外国の人に説明しなさい、というタイプの問題は出ませんでした。(去年より前はよく出ていた)

全部の問題に答える、ことが原則だと思っていたけど、隣の席の人は半分くらい白紙でした。。。ほかの人はどうだったのかなあ。

一日目の筆記試験後に集団討論面接の時間を指定されている人がいるので、その人は15時ごろ筆記が終わってから面接を受けます。

愛媛の面接形態は5人から8人の集団面接です。まず、入室したら集団討論のテーマが言い渡されます。その後、討論を20分行き、終了後に20分くらいの面接に移ります。端から順に言っていくもの、挙手をしたものだけ答えるもの、志願書からの質問、などです。私の場合は、後ほど紹介します。

試験二日目

専門実技

中学校英語の専門実技試験はshow and tellのようなスピーチでした。全部英語。

まず、番号順に6人ほどのグループに分かれます。試験室に入ると、一番番号の若い人からスピーチをします。その後、他の人から質問を受けます。スピーチのタイトルは試験直前に「私の夢」「私の趣味」など5つ与えられ、任意で1つ選び1分行います。次に番号の若い人が司会をします。司会の役目はスピーチの振りと質疑応答

の指名です。で、終わると順番に役目を交代していきます。

「拳手しない人は話の内容が分からないとみなします。」と釘を刺されました。

机の上におくネームプレートも用意してくれます(これには驚きました。なんとという準備のよさ)

個人的にはおもしろい試験でした。楽しみました。

終わってから「もう面接は終わったの?」と日本語で聞かれたのですが、英語で話す場やん、ここ。と思っていた私はでかい声で「Not yet!」と答えてしまい、笑われてしまいました。。ははは。。

試験 3 日目

集団討論面接

朝一のグループだったので、メンバーと親睦を深められませんでした。司会を立ててもいいと言われていたので、少しの待ち時間に「司会する」宣言をして司会をしました。テーマは

「少年犯罪の凶悪化庭年齢化が言われていますが、その背景と教育的取り組みについて」

でした。最初の 10 分で背景を言い合い、残りの 10 分に取り組みについて話し合いました。終始和やかな雰囲気を作ることに、司会として発言の少ない人に話を向けること、教育座談会にすること(意見を闘わせないこと)に気がつけました。時間配分も腕時計で確認しながら 10 分で話を展開させるようにしました。

その後個人面接では

- ・ 余暇の過ごし方
- ・ 教員に必要な資質を 3 つ上げ、それぞれ自分を 5 段階で評価するとどうか
- ・ あなたにとって友だちとは、いい友だち関係とは、悪い友達関係とは、(端から指名制、だんだん問題が変わっていききました。)
- ・ 県外受験者なので、なぜ愛媛?
- ・ 県下どこでも行けますか。

ということを聞かれました。

視線を合わず、笑顔、文末まではっきりと言う、即答、早口にならない、と今までの練習で友人から注意されたことを思い出す心の余裕はありましたが、声はビブレードが掛かっていました(恥ずかしい・・・)

最後はテンションをあげて、元気に笑顔で答えることが必要だと思います。面接官は発言の内容云々より、雰囲気や話し方協調性を見ています。人見知りする人も、40 分間演じきりましょう。

7 月上旬には精神的に参ってしまって、これで試験を乗り越えられるのか、と自分に対して

心配になった時期もありました。これを支えてくれたのは同じ学校の先生たち、アカデミーの教官とクラスメイト、そして毎日毎日「せんせー、せんせー！！」と声をかけてはいろんなたわいもない話をして来る子、授業中に寝ていて起こしても起きない子、メールで恋愛話ばかりする子、いろんな生徒でした。もうただただ可愛いこの子たちは私が受験生だなんて知らないんだ、ちゃんと先生として接しなければ、という意地で毎日学校では元気に働いていて、結果的にそれが精神的な支えともなりました。

特に同じ学校の先生は「この中学校で今おる先生らと働いたことをお前の誇りにしてもらいたいから、講師だとか若いからとかそういうことは抜きにして道徳や学活の時間にも積極的に授業やれよ。」とか、「お前は試験のことまず考えろ、甘えられるところは甘えとけよ、誰もお前が仕事してないとは思わんけん安心しろ」「生徒は　ちゃん(私)のこと好きなんよ、若くて話のわかる先生がおってくれて喜んどるよ」とかなり励まされ、数学の一般教養の問題を教えてもらったり、ほんとはよくしてもらいました。

試験に受かった今も、すごく喜んでくれています。

前の学校の先生にも合格をお知らせしたのですが、2人だけメルアドを知っていたのでメッセージを送ったあと、異動した先生、余り交流をもてなかった先生からも「ちょっとー、受かったんやってー、おめでとー、よかったねー」という言葉を頂き、かなり感激しました。今は来年度の初任者研修に対する不安が新たに生まれつつありますが、このままの勢いでつっぱしっていきたいと思います。

最後まで読んでくださってありがとうございました。